

荒井賢治先生  
寄贈作品展  
ふる里に  
抱かれて



写真 / 灯明を売る少女

入場無料

令和6年  
5 / 7・31  
火曜 金曜

5 / 12 日曜 | 13:30-14:30  
(村民ホール)

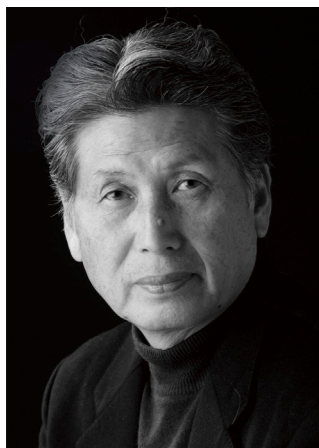
談話

佐那河内村役場 村民ホール

9:00~17:00 土日は閉庁(ただし、12日(日)は開館)

妻・荒井由子さんが荒井賢治氏の  
人と作品について縦横に語ります

お問い合わせ 佐那河内村企画政策課 | 〒771-4195 徳島県名東郡佐那河内村下字西ノハナ31番地  
TEL:088-679-2973 FAX:088-679-2125 <https://www.vill.sanagochi.lg.jp>



## 荒井賢治

昭和23年(1948)2月27日生まれ、佐那河内村下字桃山出身。

勝浦園芸高校(現 小松島西高校勝浦校)卒業後、会社員を経て昭和48年(1973)徳島市にて写真店を開業。

日本写真家協会会員、二科会写真部会員・理事、二科会写真部徳島県支部長、徳島県美術家協会理事等を歴任。

平成3年(1991)日本写真家協会JPS展金賞受賞、同年に個展「源流・吉野川をゆく」を開催。

翌年フランス・ロワイアン、後にピアリッツ〜ノルマンディーにおいて写真展を開催。

平成8年(1996)に個展「人間賛歌 遥かなるインド」、

平成14年(2002)に個展「風そよぐ〜平家・徳島落人伝説〜」を東京・徳島で開催し、同写真集(日経BP企画)を出版。

平成16年(2004)徳島県立文学書道館で太宰府展の協賛として個展「大宰府「遠い都」」を開催、

翌年には太宰府天満宮宝物殿において写真展を開催、写真は同館に永久収蔵される。

平成18年(2006)に個展「悠々閑々」を開催。平成23年(2011)『限界集落 ふる里に抱かれて』(徳島新聞社)を出版。

逝去後、生前の故人の希望で平成24年(2012)に同写真展を徳島と東京で開催。

同年に『村の写真集 伝えたい村の話 徳島県名東郡佐那河内村』(佐那河内村)を刊行。

平成23年(2011)11月22日逝去。故人の希望により村の生家で記念碑とともに眠る。

### 展示作品一覧表

タイトル	出品歴・受賞名	受賞・出品年	組枚
フィッシングビレッジ	日本写真家協会JPS展金賞	1991年	4
帰路	第33回二科会写真部展初入選	1985年	1
朝のひととき	第38回二科会写真部展京セラ賞	1990年	1
少女	第39回二科会写真部展日本シーベルヘグナー賞	1991年	1
まなざし	第41回二科会写真部展マミヤ・オーピー賞	1993年	1
ともだち	第44回二科会写真部展フェニックス賞	1996年	1
歓喜する人々①	第51回二科会写真部展会友努力賞	2003年	1
大地の女	第53回二科会写真部展大竹省二賞	2005年	1
青年	第56回二科会写真部展	2008年	1
灯明を売る少女	第57回二科会写真部展	2009年	1
砂漠のひととき	第58回二科会写真部展	2010年	1
からす	第40回徳島県美術展特選	1985年	3
カラス	第40回徳島県美術展特選	1985年	2
坪尻駅	カルチャーフェスティバル		1

タイトル	組枚
朝	2
要害櫻	1
東の権兵衛桜	1
北インドにて	1
杖を持つ男	1
「インドの家」より	1
海峡	1
冬の海	1
おかえり	1

## ごあいさつ

佐那河内村下字桃山ご出身の写真家荒井賢治先生が逝去されて早くも12年余の歳月が経過しました。その翌年には村内で写真展「限界集落 ふる里に抱かれて」を開催し、多くの村民のみなさまにご観覧いただきました。さて、令和4年(2022)には、荒井先生の妻・由子様のご厚意により、故人の命日である11月22日に22点の作品をご贈いただくことができました。インドなどを訪ねて撮影し、二科会写真部展等で受賞された作品を含む作品群について、村民のみなさまにもご観覧していただきたく、今回の作品展を企画いたしました。多くのみなさまにご観覧いただき、荒井先生の作品を堪能していただけますとともに、『村の写真集 伝えたい村の話』(平成24年)の撮影・刊行を通じて生まれた村のみなさまとの深いつながりについても想起していただけたら幸甚に存じます。末尾ながら、この度の作品展にご協力いただきました荒井由子様をはじめ、関係のみなさまに御礼申し上げまして、開催のあいさつといたします。

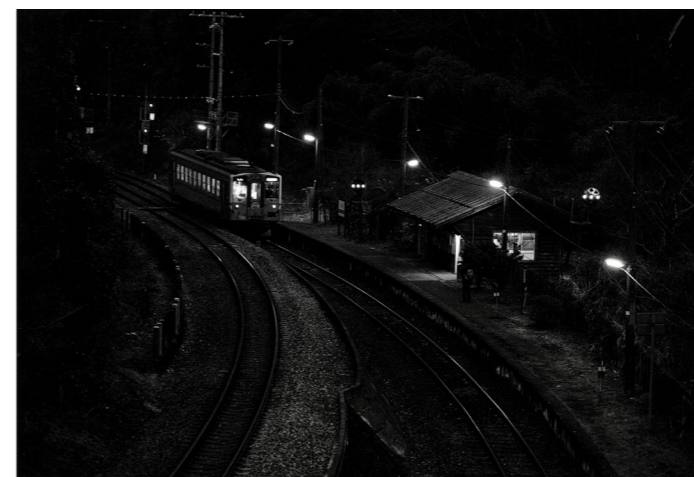
令和6年5月7日  
佐那河内村長 岩城 福治



フィッシング ビレッジ(4枚組)



帰路



坪尻駅



要害櫻

荒井賢治先生  
寄贈作品展  
ふる里に  
抱かれて